

デザイナーとの連携を含め、農商工連携により新商品を生み出す企業

高知県安芸郡馬路村の株式会社エコアス馬路村(従業員数24名、資本金4億2,060万円)は、馬路村の森林資源を有効活用し、林業の活性化を図ることを目的として、馬路村役場が中心となって2000年に設立した企業である。

馬路村は、その面積の96%を森林が占めており、魚梁瀬杉(やなせすぎ)に代表される杉材の産地である。同社は、杉の間伐材を原材料として用いた木製のトレイやうちわ等を開発し、高知県のアンテナショップや全国のインテリアショップ等で販売するほか、インターネットでの販売等に取り組んできた。

同社の目玉商品は、「monacca(モナッカ)」と名付けた、杉の間伐材を原材料としたバッグである。杉の間伐材でバッグを作るという発想の斬新さと、自然の木目を活かしたデザインの美しさが、消費者を惹きつけ、人気商品となっており、(財)日本産業デザイン振興会「2006年度グッドデザイン賞」も受賞している。現在monaccaは、バッグだけでなく、電卓、座布団といったアイテムも販売している。

この商品は、高知県出身のデザイナーの島村卓実氏との偶然の出会いによって誕生したものである。2000年頃、島村氏が、東京都武蔵野市にある高知県のアンテナショップを訪れた際に、エコアス馬路村の木製のトレイを偶然見つけ、「香りの良い木を利用して、身の回りのものをデザインしてみたい」と思った。その後、島村氏は、同郷の友人の紹介で、同社を訪問することになり、「この機会に、デザイナーとして、安くて良い新商品を提案しよう」という思いから、既存商品の木製のトレイを二つ重ね合わせたmonaccaの原形となるスケッチを描き上げ、訪問時に同社に提案した。株式会社エコアス馬路村では、新商品の開発を検討していたところであり、島村氏からのアプローチが、新商品の具体化の契機となった。

同社は、monaccaの開発以降、島村氏とデザイン業務で連携しながら、引き続き、新たな商品の開発に挑戦するとともに、海外への販売も目指し、地元の中芸地区商工会等と積極的に連携を行っている。これらの取組は、2008年4月、経済産業省「農商工連携88選」に選定された。

エコアス馬路村で広報を担当する上治純平氏は、「当社の間伐材製品の売上高の1%は、村の森を保全するための基金に積み立てられます。事業が発展することで、故郷の森に貢献できることが、何よりうれしいです。」と話す。故郷への思いを胸に、同社は更なる発展を目指している。

